

倉谷・古中尾地区 (津奈木町)

津奈木の農業を未来につなぐ ～農地を活用した新規作物への挑戦～



ビジョンの概要

地区の課題

- ・農家の担い手不足。
- ・整備済みのほ場に、排水が悪かったり、機械を所有していないため放棄された耕作地がある。
- ・イノシシなどの有害鳥獣被害が深刻。
- ・電気柵などの鳥獣対策が個々の取り組みで非効率。

ビジョン策定のプロセス

「次世代につなぐことが難しい」という思い

ビジョン

地区の目指す姿

(1) 高単価作物の植え付け

- ①ほおずきの新規栽培をスタート。
- ②栽培法を確立させる。
- ③だいこん栽培の面積拡大と寒漬け加工品の製造拡大。
- ④「くまさんの輝き」と酒米「山田錦」の特別栽培。



持続可能な農業の実現

耕作放棄地の増加で、集落衰退の危機。集落の農地を維持するため担い手の育成を行うとともに、農業所得の向上を図り、持続可能な農業を実現する。

(2) 集落営農組織の設立

- ①先進地への視察研修。
- ②共同利用する農機具を購入。
- ③組織化に向け具体策を着実に実行する。

法人化に向けた組織づくり

集落営農のむ組織化を進めたいという強い思いで動き始めた。法人化に向けた継続的な取り組みが重要で、そのためには若手と一緒に活動が求められる。

(3) 基盤整備の実施

- ①排水対策、用水路の整備。
- ②耕作放棄地対策と有害鳥獣対策。

集落営農組織の設立目指す

農業所得向上を目指し、高単価作物への挑戦を行いながら、必要な施設や機械整備を整えていく。また、ほ場整備済みの農地であるにもかかわらず、排水対策が必要な水田などの基盤整備や耕作放棄地となっている農地の再生を図る。集落の担い手として集落営農組織の設立を目指す。

成果目標

- ・ほおずきを20a以上栽培する。
- ・集落営農組織を設立する。
- ・米の新品種「くまさんの輝き」を150a、酒米「山田錦」の特別栽培米を50a作付けする。
- ・寒漬けの加工品製造を200kg増加させる。

具体的取り組み

(1) 高単価作物の植え付け

- ほおずきの新規栽培をスタート
→2年連続失敗したが、3年目は計9.3aで栽培。
1戸の農家は直売所で販売。新規農家も手ごたえを感じている。
- 栽培法を確立させる
→ほおずき栽培は田植えと重なり手が回らない。さらなる技術取得が必要。
- だいこん栽培の面積拡大と寒漬け加工品の製造拡大
→(株)アグリ津奈木が寒漬け大根を増産。耕作放棄地を使った栽培を町が呼びかけている。
- 「くまさんの輝き」と酒米「山田錦」の特別栽培
→くまさんの輝きは販売単価が高く、作付け面積は110aから470aに拡大。酒米「山田錦」は地元の亀萬種族が高単価で買い取り、オリジナルの日本酒として市販している。



(2) 集落営農組織の設立

- 先進地への視察研修
→八代市坂本村鶴喰を視察。
その後はコロナで中断。
- 共同利用する農機具を購入
→営農組織の設立を見据えて順次購入している。
- 組織化に向け具体策を着実に実行する
→勉強会を開催。規約作成など進める。



(3) 基盤整備の実施

- 排水対策、用水路の整備
→3か所で計107㎡の排水路を更新した。
- 耕作放棄地対策と有害鳥獣対策
→購入したモアを取り付けたトラクターで、イノシシのすみかとなる耕作放棄地の雑草を除去した。



成果

成果目標

- ・ほおずきを20a以上栽培する。
- ・集落営農組織を設立する。
- ・米の新品種「くまさんの輝き」を150a、酒米「山田錦」の特別栽培米を50a作付けする。
- ・寒漬けの加工品製造を200kg増加させる。

結果

- ・栽培面積は9.3a。
栽培技術の習得が必要。
- ・コロナ禍で活動が停滞。足踏み状態。
- ・くまさんの輝きは470a、山田錦は80aを栽培。
特に山田錦は、令和2年度産で地元酒造会社が日本酒1樽を製造し、オリジナル商品を開発。
- ・400kgから600kgに増加。

今後に向けて

高単価作物や機械の導入が起爆剤になって、新規就農者の動きも